

各関係機関長 殿

岡山県病虫害防除所長
(公印省略)

病虫害発生予察情報について

病虫害発生予報第6号を下記のとおり発表したの送付します。

令和2年度病虫害発生予報第6号

令和2年8月31日
岡山県

予報概評

作物名	病虫害名	発生時期	発生量
水 稲	穂いもち 紋枯病 白葉枯病 穂枯れ もみ枯細菌病 トビイロウンカ	並 — — — —	やや多 やや多 並 やや多 やや多 多
ダイズ	べと病 紫斑病 葉焼病 ハスモンヨトウ カメムシ類	— — — — —	やや少 並 やや多 やや多 並
モ モ	モモハモグリガ ハダニ類 ウメシロカイガラムシ	遅 — —	少 やや多 並
ブドウ	褐斑病 べと病 さび病 ブドウトラカミキリ	— — — —	やや多 やや多 やや多 並
キュウリ	べと病 褐斑病 炭疽病 うどんこ病	— — — —	やや多 やや少 並 並
トマト	疫病 斑点細菌病 葉かび病	— — —	並 並 やや多
アブラナ 科野菜	アブラムシ類 モザイク病 コナガ ハイマダラノメイガ	— — — —	少 やや多 少 並
キ ク	ナミハダニ	—	やや多

1. 普通作物

(水 稲)

(1) 穂いもち (晩生種)

予報内容

発生時期 並

発生量 **やや多**

予報の根拠

ア. イネ (晩生種) の生育は平年並である。

イ. 8月17～18日の巡回調査によると、南部地帯の葉いもちの発生圃場率は80.6%で、平年(40.8%)より高かった。

ウ. 8月27日の季節予報によると、9月の気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、発病を助長する条件ではない。

(2) 紋枯病 (晩生種)

予報内容

発生量 **やや多**

予報の根拠

ア. 8月17～18日の巡回調査によると、発生圃場率は40.7%で、平年(34.2%)並であった。

イ. イネの茎数は平年並である。

ウ. 8月27日の季節予報によると、9月の気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、発病をやや助長する条件となる。

(3) 白葉枯病 (中生種、晩生種)

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 8月17～18日の巡回調査では、平年同様発生を認めなかった。

(4) 穂枯れ (ごま葉枯病菌による穂枯れ、晩生種)

予報内容

発生量 **やや多**

予報の根拠

ア. 8月17～18日の巡回調査によると、葉でのごま葉枯病の発生圃場率は20.0%で平年(17.6%)並であった。

イ. 8月27日の季節予報によると、9月の気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、発病をやや助長する条件となる。

(5) もみ枯細菌病 (晩生種)

予報内容

発生量 **やや多**

予報の根拠

ア. 前年度の発生量は平年より多かったことから、本年度の種子の保菌率は平年より高いと考えられる。

イ. 8月27日の季節予報によると、9月の気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、発病を助長する条件となる。

(6) トビイロウンカ

予報内容

発生量 **多**

予報の根拠

ア. 赤磐市の予察灯における8月1半旬～5半旬の誘殺数は、8頭で平年(2.7頭)より多かった。

イ. 8月17～18日の巡回調査によると、発生圃場率は60.0%で平年（5.4%）より高く、株当たり虫数は3.0頭で平年（0.16頭）より多かった。さらに、県下各地の圃場で増殖率の高い短翅型雌成虫を確認している。

防除上の参考事項

ア. 病害虫発生予察警報第1号（令和2年8月19日発表）参照。

（ダイズ）

（1）べと病

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 8月27日の季節予報によると、9月の気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、発病をやや抑制する条件である。

（2）紫斑病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 8月27日の季節予報によると、9月の気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、発病を助長する条件ではない。

（3）葉焼病

予報内容

発生量 **やや多**

予報の根拠

ア. 8月27日の季節予報によると、9月の気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、発病をやや助長する条件である。

（4）ハスモンヨトウ

予報内容

発生量 **やや多**

予報の根拠

ア. 県予察圃場のフェロモントラップにおける8月1半旬～5半旬の誘殺数は1,934頭と平年（1,082.9頭）より多かった。

イ. 8月17～18日の巡回調査によると、白化葉の発生圃場率は2.7%で平年（3.5%）並であり、発生程度は軽微であった。

ウ. 8月27日の季節予報によると、9月の気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、本虫の増殖を助長する条件である。

（5）カメムシ類

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 赤磐市の予察灯における8月1半旬～5半旬の誘殺数は、アオクサカメムシが5頭で平年（6.0頭）並、イチモンジカメムシが8頭で平年（9.1頭）並であった。

イ. 8月27日の季節予報によると、9月の気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、本虫の増殖を助長する条件である。

2. 果樹

（モ モ）

(1) モモハモグリガ

予報内容

発生時期 遅

発生量 少

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップにおける8月1半旬～5半旬の誘殺数は0頭で平年(3.8頭)より少なかった。

イ. 8月5日の県南部における巡回調査によると、発生圃場率は0%で平年(6.1%)より低かった。

(2) ハダニ類

予報内容

発生量 **やや多**

予報の根拠

ア. 8月5日の県南部における巡回調査によると、発生圃場率は14.3%で平年(31.1%)より低かったが、発生程度は高かった。

イ. 8月27日の季節予報によると、9月の気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、本虫の増殖をやや助長する条件である。

(3) ウメシロカイガラムシ(第3世代)

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 7月23日の巡回調査では第2世代成虫の発生圃場率は0%で、平年(2.5%)よりやや低かった。

イ. 8月27日の季節予報によると、9月の気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、本虫の増殖をやや助長する条件である。

(ブドウ)

(1) 褐斑病

予報内容

発生量 **やや多**

予報の根拠

ア. 8月5日の巡回調査における発生圃場率は50.0%で、平年(37.3%)よりやや高かった。

イ. 8月27日の季節予報によると、9月の降水量はほぼ平年並とされており、発病を助長する条件ではない。

防除上の参考事項

ア. 県内でQoI剤耐性菌の発生が確認されているので、本年度発生の多い圃場では次年度の薬剤の選択に留意する。

(2) ベと病

予報内容

発生量 **やや多**

予報の根拠

ア. 8月5日の巡回調査によると、発生圃場率は100%で平年(85.7%)よりやや高く、一部多発している圃場が確認された。

イ. 8月27日の季節予報によると、9月の気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、発病をやや抑制する条件である。

防除上の参考事項

ア. 令和2年度植物防疫情報第3号(令和2年7月2日発表)参照。

イ. 県内でQoI剤耐性菌の発生が確認されているので、本年度発生の多

い圃場では次年度の薬剤の選択に留意する(平成24年度植物防疫情報第2号、平成24年4月6日発表参照)。

(3) さび病

予報内容

発生量 **やや多**

予報の根拠

ア. 8月5日の巡回調査によると、発生圃場率は50.0%で平年(37.3%)よりやや高かった。

イ. 8月27日の季節予報によると、9月の気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、発病を助長する条件ではない。

防除上の参考事項

ア. 令和2年度植物防疫情報第6号(令和2年8月11日発表)参照。

(4) ブドウトラカミキリ

予報内容

発生量 **並**

予報の根拠

ア. 8月5日の巡回調査において、平年同様発生を認めなかった。

3. 野菜

(キュウリ)

(1) ベと病

予報内容

発生量 **やや多**

予報の根拠

ア. 8月24日の巡回調査によると、発生圃場率は80.0%で平年(51.5%)よりやや高かった。

イ. 8月27日の季節予報によると、9月の気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、発病をやや抑制する条件である。

(2) 褐斑病

予報内容

発生量 **やや少**

予報の根拠

ア. 8月24日の巡回調査によると、発生圃場率は20.0%で平年(54.0%)より低かった。

イ. 8月27日の季節予報によると、9月の気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、発病をやや助長する条件となる。

(3) 炭疽病

予報内容

発生量 **並**

予報の根拠

ア. 8月24日の巡回調査によると、発生圃場率は20.0%で平年(23.9%)並であった。

イ. 8月27日の季節予報によると、9月の気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、降水量が多い場合、発病を助長する条件となる。

(4) うどんこ病

予報内容

発生量 **並**

予報の根拠

ア. 8月24日の巡回調査によると、発生圃場率は60.0%で平年(74.3%)並であった。

イ. 8月27日の季節予報によると、9月の気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、発病をやや助長する条件である。

(トマト)

(1) 疫病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 8月24日の巡回調査では発生を認めず、発生圃場率は、平年(発生圃場率1.3%)並であった。

イ. 8月27日の季節予報によると、9月の気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、発病をやや抑制する条件である。

(2) 斑点細菌病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 8月24日の巡回調査では、平年同様発生を認めなかった。

イ. 8月27日の季節予報によると、9月の気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、発病をやや助長する条件となる。

(3) 葉かび病

予報内容

発生量 **やや多**

予報の根拠

ア. 8月24日の巡回調査によると、発生圃場率は50.0%で平年(34.2%)よりやや高かった。

イ. 8月27日の季節予報によると、9月の気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、発病をやや抑制する条件である。

(アブラナ科野菜)

(1) アブラムシ類とアブラムシ伝搬性モザイク病

予報内容

発生量 アブラムシ類 少
モザイク病 **やや多**

予報の根拠

ア. 県予察圃場(赤磐市)の黄色水盤における8月1半旬~5半旬の飛来数は81頭で、平年(321.6頭)より少なかった。

イ. 8月24日の巡回調査によると、ダイコンでのアブラムシ類の発生圃場率は0%で平年(7.3%)よりやや低かった。

ウ. 8月24日の巡回調査によると、ダイコンのモザイク病の発生圃場率は50.0%で平年(8.7%)より高かった。

エ. 8月27日の季節予報によると、9月の気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、特に本虫の増殖を助長する条件ではない。

(2) コナガ

予報内容

発生量 少

予報の根拠

ア. 県予察圃場(赤磐市)における8月1半旬~5半旬のフェロモント

ラップの誘殺数は1頭で、平年(2.0頭)よりやや少なかった。

イ. 8月24日の巡回調査によると、ダイコンでの発生圃場率は0%で平年(31.9%)より低かった。

(3) ハイマダラノメイガ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 8月25日の巡回調査によると、県南部のチンゲンサイでの発生圃場率は10.0%で、平年(21.4%)よりやや低かった。

イ. 8月27日の季節予報によると、9月の気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、本虫の増殖を助長する条件となる。

防除上の参考事項

ア. 幼苗期に加害されると被害株は心止まりになるので、早期発見・早期防除に努める。

イ. 育苗期間中に寒冷紗で被覆を行うと、成虫の侵入・産卵防止に有効である。

ウ. 薬剤感受性の低下が懸念されるので同一系統の薬剤の連用を避け、薬剤以外の防除対策を組み込む。

4. 花 き

(キク)

(1) ナミハダニ

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 8月24~25日の巡回調査によると、発生圃場率は37.5%で、平年(5.7%)より高かった。

イ. 8月27日の季節予報によると、9月の気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、特に本虫の増殖を助長する条件ではない。

この情報は、岡山県病害虫防除所ホームページでも公開しています。

アドレスは、<http://www.pref.okayama.jp/soshiki/239/> です。

